

7-2 中国「宜昌」における水管傾斜計（震研-90型）連続観測

Continuous Observation by Watertube Tiltmeter (ERI-90 type) at Yichang Station in China

東京大学地震研究所，名古屋大学理学部，中国国家地震局地震研究所（武漢）

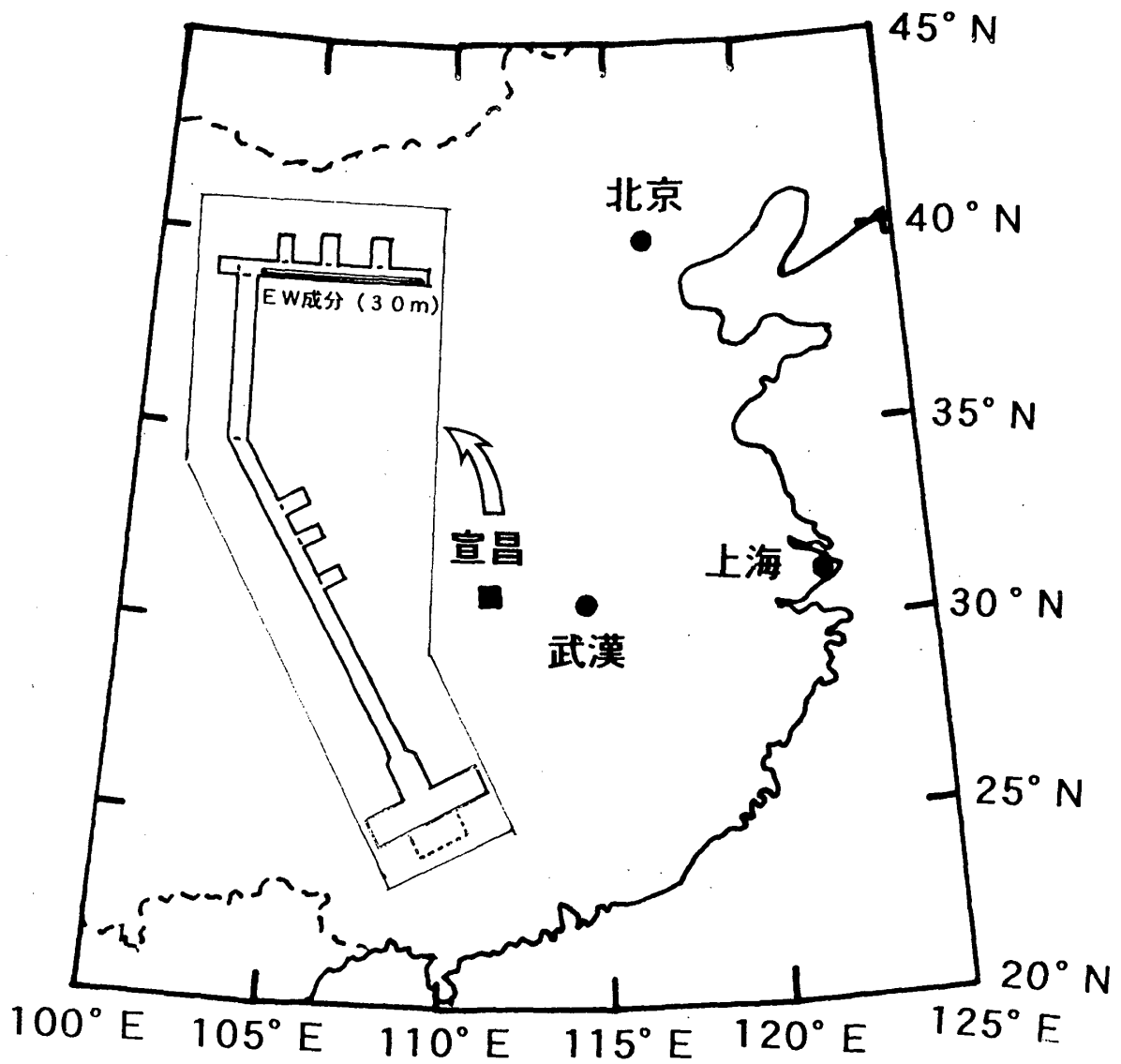
Earthquake Research Institute, The University of Tokyo
Faculty of Science, Nagoya University
Earthquake Research Institute, State Seismological Bureau, China

東京大学地震研究所，名古屋大学理学部，と中国国家地震局地震研究所は地震予知研究の共同研究の一貫として，1990年12月16，17日に水管傾斜計を設置し比較観測を開始した。観測点は武漢の西方約300kmに位置する宜昌市にある宜昌地震台である。観測坑の最奥に30mの水管傾斜計をE-W方向に設置した（第1図）。傾斜計は地震研究所で新しく開発した震研90型水管傾斜計で中国製のFSQ型との比較観測も可能なように並行して設置した。2日半という短期間の滞在であったが武漢の研究所の全面的な応援により，スムーズに設置が完了し滞在期間中に地球潮汐を記録することが確認できた。現在まで順調に良好な記録が蓄積（第2，3図）されており，今後の解析結果が期待されている。ここでは観測データの例を示す。

（石井 紘）

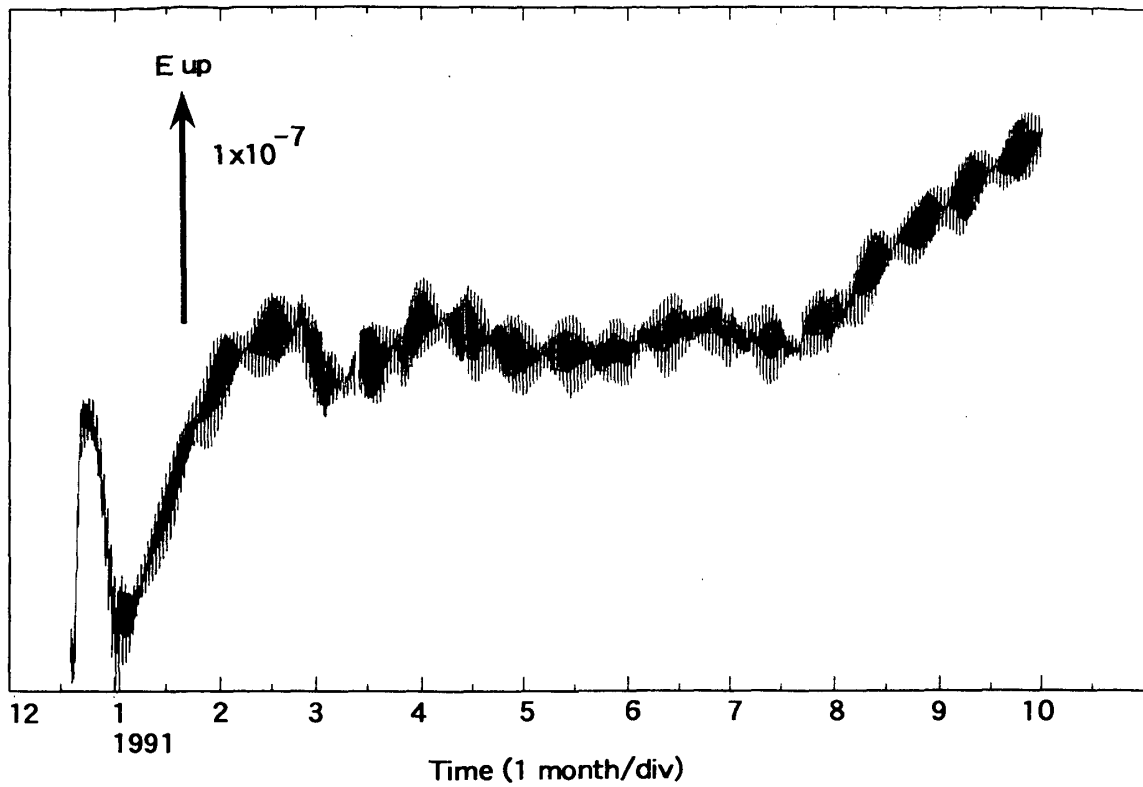
参 考 文 献

- 1) 石井 紘，松本滋夫，鈴木喜吉，平田安廣，高橋辰利，若杉忠雄，渡辺 茂，加藤照之，震研90型水管傾斜計の開発と観測，地震研究所彙報，67，(1992)，79-87.



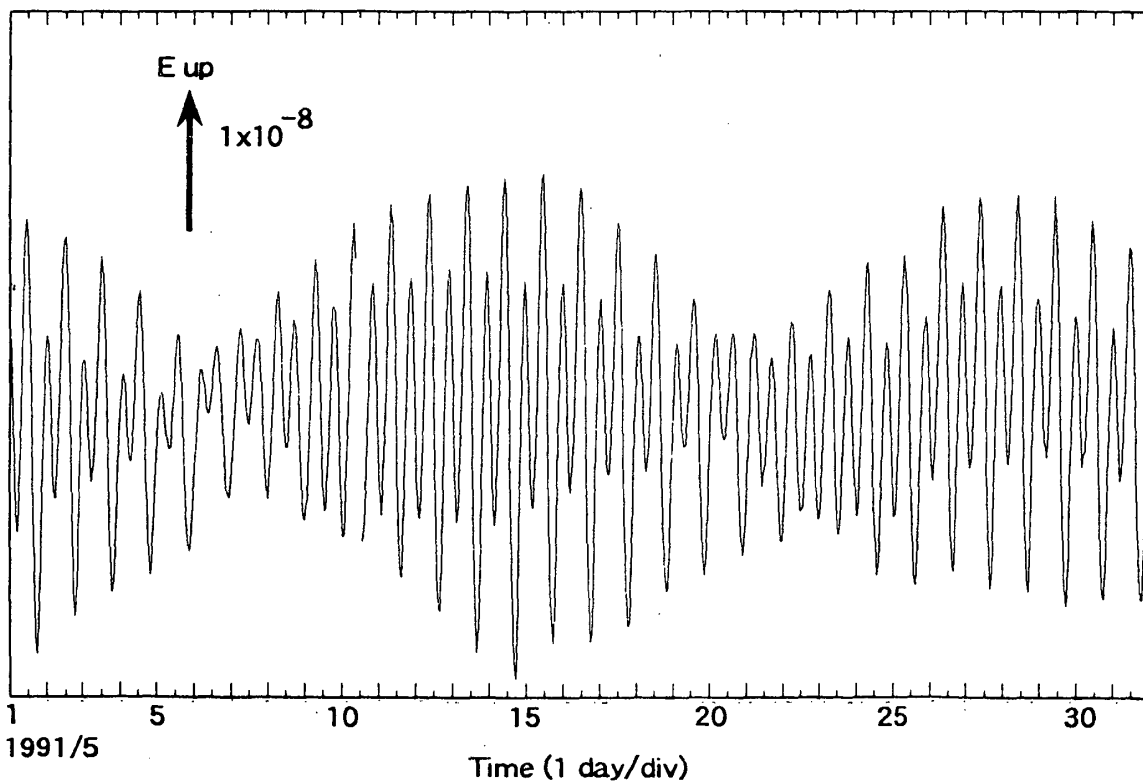
第1図 観測点の位置図と観測抗の平面図。震研90型水管傾斜計は宜昌観測点 (■) の東西方向に設置されている

Fig. 1 Location of observation station and plane figure of observation vault. ERI-90 type watertube tiltmeter is installed in the EW direction.



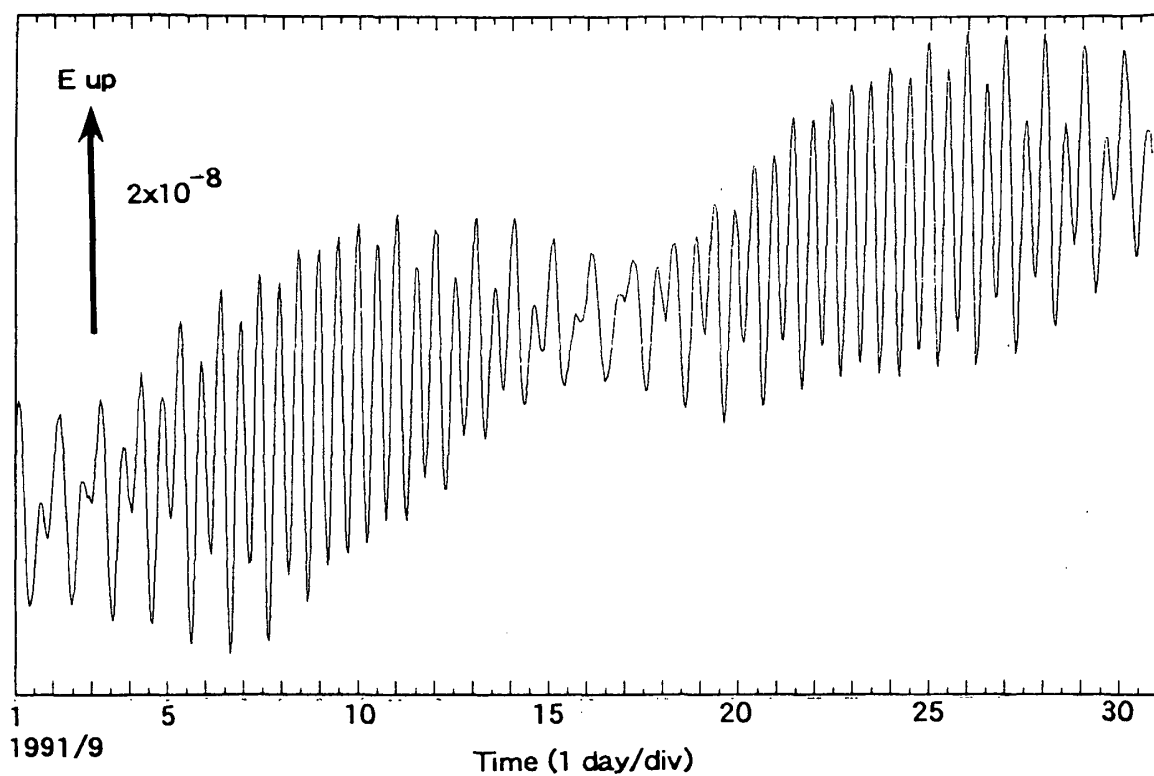
第2図 震研90型水管傾斜計による1990年12月から1991年9月までの観測データ（1時間値）

Fig. 2 Observed data with one hour sampling by ERI-90 type watertube tiltmeter from December 1990 to September 1991.



第3図 震研90型水管傾斜計による観測データ（1時間値）の例（1991年5月と1991年9月）

Fig. 3 Some examples of observed data with one hour sampling. Plots for May 1991 and September 1991.



第3図 つづき

Fig. 3 (Continued)